



なかじま みわちゃん
(6さい)

おばあちゃんは かんごし
さん。おばあちゃん みた
いに やさしい かんごし
さんに なりたいの。ちゆ
うしゃとか おばあちゃん
に ならうんだ。



川湯保育園のおともだち



かない しゅんたくん
(6さい)

みやもとむさし みたいに
つよくなって ささきこじ
ろう みたいな ひとと
しょうぶしてみたいな。そ
のためには けんどうを
ならわなくつちゃ。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと

氷はいつたん凍ると無言のものではない

2013年度前田一步園賞を受賞した

蜂谷 衛さん(56歳・中央1)



北海道の自然環境の保全と適正な利用、その調査研究などに地道な活動をしている団体や個人をたたえる前田一步園賞。2013年度の同賞に選ばれたのが蜂谷さんです。今年度受賞は、蜂谷さん含め2人、31回目を迎えた同賞を受賞するのは、本町からは3人目です。

「受賞の知らせを聞いたときには、うれしさより驚きを覚えました。僕でいいのかな」と。この賞は、自然に携わる者にとっては、とても大きな賞だと思っていたからです。師でもある永田洋平さん、細川音治さんに続いての受賞と知って、初めてうれしく、光栄に思いました。

1984(昭和59)年から屈斜路湖の御神渡り現象を調査・観察し、データの記録や分析を行ってきたことから、今回の受賞となりました。

「とあるテレビ番組で紹介されていた屈斜路湖の御神渡り現象を目にしたのは、30年前でした。当時、冬の屈斜路湖は地元でも陸の孤島、訪れる人なんていない時代。そんな地元の湖でこんなすごいことが起こっていたのかと衝撃を受けました。そして、毎日のように通うようになりました。最初は御神渡り現象だけを追っていましたが、屈斜路湖は全面結氷する

湖としては日本最大。どこで御神渡り現象が起こっているかが分からず、危険な目にも遭いました。それから、全面結氷日などのデータを取るなど、調査の対象が広がっていきました。今年で30年目。続けてこれられた原動力は何でしょうか。

「第一には好きだから。でしようね。冬の湖や氷の状態は毎年毎年、違います。氷はいつたん凍ると、春の解氷まで無言のものではありません。生きています、変化しています。それを知りたい気持ちがあります。そしてそれは、1週間や1時間で分かることではないので、毎日、そしてある程度の時間をかけて観察します。第二には、データを取ることが大切だからです。こうしたデータは自分以外、誰も取っていません。ここまで続けてくると、もはや使命感のようなものを感じています。

今後の抱負をお聞かせください。

「今までやってきたことを、全て自然の中でぶつけてみたいと思います。積み重ねてきた知識と現場の氷を照らし合わせて、知識の再確認をしたい。また氷だけでなく、雪の結晶や結氷時の音の観察などもしたい。誰もやっていないことで、結果を残していきたいです。」



摩周焼陶芸教室
代表・森 雅子さん
会員・8人



摩周焼陶芸教室の皆さん
後列中央が代表の森さん

摩周焼窯元の森雅子さんが弟子屈に移住して窯を開いたのは1980(昭和55)年。地域の方と文化的な交流を持ちたいと、近所の方を招いて一緒に陶芸を行うようになったのが1985(昭和60)年で、これが摩周焼陶芸教室の始まりとなりました。

会員数は現在8人。転勤などで会員の入れ替わりはありますが、長い方では20年以上続いている方もいます。そのうち10年以上のほかに、20歳以上の方も多いです。森さんが会員の皆さんによく言っているのは「機能性と芸術性を兼ね備えた作品を作ること」だそうです。実際に使えるものがやはり、うれしいものだそうです。また心構えとして「粘土ときちんと向き合わないと、必ず焼き上がりに表れます。人間性にも通じるため、妥協せずに最後までしっかりと作品を作り上げてほしい」と指導しているそうです。



道の駅摩周温泉で開催された会員の作品展

こうして作り上げた作品は、北海道高齢者陶芸展や町の文化祭にも出展。「意欲的な会員さんが多いんです」と、森さんは話していました。

教室に興味のある方は、代表の森さん ☎ 482-1331 までお問い合わせください。